

◇学校運営の反省と次年度に向けた方向性について 新館啓一校長

- 学校目標の具現化を目指し、「自律・共生・貢献」をキーワードに教職員、生徒、保護者、地域が連携・協働して魅力ある学校づくりを推進することができた。
- 学習活動や三大行事（駅伝大会・運動会・合唱祭）等への取り組みを通して、生徒の自律・共生・貢献する姿を見ることができた。また、行事の振り返りを通して、生徒自身が自分の成長と仲間の大切さを感じることができた。
- 防災士による防災研修会や家庭科授業でのサポート、町役場職員による進路講話、1年生での地域学習、2年生での職場体験、3年生での保育実習等、外部講師や地域の人材、資源を活用した教育活動が展開できた。次年度も地域の資源を活用し、さらなる「魅力ある学校づくり」を推進していきたい。
- 学校だよりやホームページ、安全安心メールを活用しての情報発信・提供を行うことができた。
- 三川中10のコンピテンシーについては、始業式や終業式等の場面で、生徒に話しながら意識づけすることができた。次年度は、10のコンピテンシーを教育課程の中で明確にしながる資質・能力の育成に取り組んでいきたい。
- 学びのユニバーサルデザインを意識した授業や構成的グループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニングを活用した活動を展開することができた。
- 生徒の声アンケートをもとに、「魅力ある学校づくり」の取り組みを行うことができた。生徒の声アンケート（12月実施）では、「学校が楽しい」98.2%、「みんなで何かすることは楽しい」99.4%また、生徒の自尊感情、自己有用感を高めることができた。「自分にはよいところがある」92.3%、「友だちはあなたのよいところを認めてくれる」96.4%で、前期の調査から上昇がみられる。今後も、様々な悩みや不安をかかえる生徒、周囲の生徒とうまく人間関係が築けず不登校や不適應をおこす生徒については、スクールカウンセラーや学校支援との面接やMitte（ミッテ）等を活用し、組織的な対応を継続していきたい。
- 重点施策の「生徒にとって学びのある授業を創る」ことでは、学習指導と生徒指導の一体化を意識し、質の高い授業づくりに取り組むことができた。その結果、生徒の声アンケートでは、「授業に主体的に取り組んでいる」97.6%「授業がよくわかる」91.1%と前期より上昇が見られた。次年度は、総合的な学習の年間計画を再構築し、各学年で探究的な学びを意識して取り組んでいきたい。
- 「寛容・共生・貢献」の心を育む教育活動を推進するについては、学校行事等を通して、主体性の向上、協力・連携する大切さ、他人を思いやる心の成長が見られた。生徒会でも学年をオープンにしたコミュニケーション活動が行われてきている。次年度は、重点を『「自律・共生・貢献」の心を育む教育活動』に変更し、生徒会活動を重視して主体的な活動を全職員で支援していきたい。
- 高い同僚性をもとに、学び合い、研鑽し合う教職員集団をめざすことについては、校内授業研や校内研修を通して、授業改善や教員の資質向上を図ることができた。また、生徒の思いに寄り添い、生徒が成長することを全職員で支援することを心がけ、生徒との信頼関係も向上している。さらに、校内授業研修会では、教科の枠にとらわれずに育成したいコンピテンシーで授業を研究することもできた。次年度も全職員で組織的な研修に取り組んでいきたい。



◇学校運営の反省と次年度に向けた方向性への質問や意見について 委員の方より

- ・生徒のアンケート結果も満足度が高く素晴らしい。今年度、3年生が取り組んだ防災研修会は生徒の主体性から行われたものか。
- テーマとして防災に目をあてたのは学年アンケートからで、昨年大雨による体験を元に地域防災を半年にわたって学んできた。県の防災学習館が目の前にあり取り組みやすかった。

- ・3年生の防災研修のまとめなどを下級生に発表する機会などはなかったのか。つながりができるとよかった。
- 3年生はまとめの時間を多くとれなかった。学校としては、中学生と町議員との懇談会において、自分たちの町の学びを発表できればと考えているが、現在、懇談会が8月下旬に実施されており、難しい状況である。
- ・「自律・共生・貢献」というテーマを掲げて、みんなで話し合いを行いながら進めていることに大変好感が持てた。
- ・グループエンカウンター（菜の花タイムと学校では呼んでいる）で他を理解しながら話し合い活動を進めている今どきの中学生に驚きを感じた。難しい年ごろなのに自分をさらけ出すことをよくやっている。
- ・教職員は年々かわっているはずなのに、生徒の意識が高まっていることは、指導にあたる先生方の共通理解とチーム力に感謝したい。
- ・自分の子どもを見ていると、家庭の姿と学校での姿には大きな違いを感じる。それだけに学校での活動により自律心を育てていただいていると感じている。地域との関わりは今後も大切にしてほしい。それが、三川町を想う気持ちにつながっていくことだと思う。
- ・コロナ禍で育った子どもたちなので何かしら物足りなさを感じていたが、中学校でよく育てていただいていると感じた。特に、1年生に対して、先生方が学習に対して熱心に教えてくれていることは大変ありがたい。
- ・生徒会が主体的に進めてくれているコミュニケーション活動はよい取り組みで、今後も継続してほしいと感じた。
- ・部活動懇談会に参加して思ったことだが、部活動への加入者が年々少なくなっていることが残念である。地域との関わりの点からも、文化関係や競技種目（大会で上位をめざす）だけでない活動がほしい。
- ・テスト結果の分布表を見て、授業が分かる生徒が多い割に下位の生徒が多いのではと心配になった。
- 分布表の刻み方が上位は10点、下位は50点刻みになっている。生徒への配慮からそうしてきた。一見すると下位が多いように見える。

◇その他、学校課題や熟議テーマに関わって 委員の方より

- ・少子化が進む中では、複式か統合かになるのはしかたがない。中学校は3小学校の卒業生が入るので当面は継続できる。
- ・少子化に向かう中で、子どもたちの多様性に応えるのは大変なことである。
- ・部活動ではなく、期間限定的な学習支援活動を地域の人材を活用して行うことはできないのだろうか。
- ・保護者や地域の方を中心にして、学校のサポートや支援のための人材バンク的なものが作れたら、総合的な学習や校外学習を計画するのに役立つ。
- ・三川町の今昔的なことを調べることや今の子どもが使わなくなった方言などを調べることも楽しいように思う。
- ・「いじめ」などの状況について、定義が変わり状況も変化してきている。
- ・SNSの自己管理能力はどのようになっているのか。あまりに便利になってきて何が大切なのかが大事になってきている。

